

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第10期 第1年 第1回 第2日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2014(平成26)年5月25日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 25人

張 氷青、葉 元聡、任 家林、劉 健全、王 夕心、金 スンオグ、孔
敏淑、崔 想、河 相宇、ヴィラマー ジェリー、タカハシ ライゼール
ラモス、牟 鳳菊、グエン ゴク バオ リン、ヘイ ジャ フィ、なかだ
シリワン、シャルマ ガジエンダー、ヒラチャン アスカ、ケゼングア
エドワード、セヌー ジョアキム、鈴木 イエレナ、園田 泉 ベアトリス、
河本 ファビオ 良則、シラケン ブランドン、オルソン チャールズ、
デイトトマー ダニエラ

(2) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、大田 担当課長、須藤 課長補佐、笛木 担当
係長、小沢 担当係長、北爪 職員、菅原 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 3人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、川崎市外国人代表者会議2014年度第1回第2日を開催する。今日は、バルトコバ・オクサナさんから欠席の連絡が届いている。職員の紹介について、事務局からお願いします。」

(事務局石川室長から事務局の紹介)

セヌー委員長「次に、今日の日程と配付資料の確認について事務局からお願いします。」

(事務局須藤課長補佐が今日の日程と配布資料について説明。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づいて説明。)

セヌー委員長「それでは議事に入る。今日は決めなければいけないことがたくさんある。スムーズに進行が進むようにご協力をお願いします。まずは、第10期の調査審議について事務局から説明をお願いします。」

(事務局北爪職員が資料2に基づき説明。)

セヌー委員長「次に、第10期で審議したいテーマについて、順番に発表してもらおう。」

話したいテーマはいくつでもいいが、1人1分くらいでお願いします」

崔委員「まず、防災関係、それと育児、医療、学校関係だ。」

ディットマー委員「2つのアイデアがある。まず1つ目は、キーワードだと姉妹都市とでもいうのか、海外に向けて何か川崎市のPRになるような活動ができればと思う。2つ目は、キーワードでいうと短期滞在者についてのサポート。たとえば、本当に留学とかエキスパートとして2、3年だけ日本に滞在する外国人に対して、何かサポートができないか。とくに家財の購入とか、そういうのが結構大変だったりするので、そこでもう少しサポートできる制度ができたらと思う。」

ヒラチャン委員「私からも2点あり、1つは育児、子育てだ。赤ちゃんや保育園とかだけではなくて、小学校とか、それくらいまでを含めた育児や子育てについて考えていきたい。もう1つは、最近よく新聞などでもみることが多い防災対策についてだ。」

張委員「私からも2つ。1つは、前期でも議論した情報伝達の続きをやりたい。もう1つは、提言の評価の仕組みについてだ。」

シフケン委員「2つ話したいテーマがある。1つ目は日本語ができない親に対して、学校からの情報を何とか届けられるような方法を考えたい。2つ目は、年金

問題で、我々外国人ははたして年金がもらえるのかということを知りたい。」
任委員「私からも2つある。1つは、祭りについて。お祭りについて積極的な参加
をしたい。何か外国人としてできる役割をこれから継続していけるような枠を
確保したい。あと、もう1つは、育児関係だ。私も1歳半の息子がいるので、
育児のことに関心がある。」

ヘイ委員「私が話し合いたいテーマは1つで、子どもたちの母国に関する理解とい
うのがキーワードだ。私自身は小学校のころから日本で教育を受けてきて、
自分の国のことよりも日本のことの方が知っているといっても過言ではない。
過去の提言でも子どもたちへの母国語学習などに関して触れられているが、さ
らに踏み込んだ話をしたい。たとえば、世界こども会議のような場をつくっ
てあげて、川崎市で学んでいる外国籍の子どもたちを集めて、自分の国のこと
を知ったり、言語を学んだり、さらにはそれを外へ向けて発信、発表できると
よいと思う。」

タカハシ委員「私からも1点で、できれば、市と外国人の市民の間の
コミュニケーション・プラットフォームをつくりたい。市からどうやって外国人
たちに情報を届けるか、外国人たちも必要なときに情報をどうやってもらうの
かを考えたい。あと、いろいろな外国人たちの経験とか意見を交換できる
プラットフォームがあったらよいと思っているので、どうすれば実現できるか話
し合いたい。」

ケゼンガア委員「私が話し合いたいのは、教育・育児関係、主に日本語を得意とし
ていない外国人の家庭への支援についてだ。子どもを初めて学校に入れたいと
きに、入学申請の手続きはほとんど日本語だが、今後は、そういった人たちに
もスムーズに申請ができるような支援ができればよいと思っている。また、す
でに学校に通っている子どもがいる場合も、学校からは毎日のようにいろい
ろな連絡事項があるが、日本語がベースなので日本語をあまり得意としていない
外国人の家庭に対して、何か支援ができるかということをお聞きしたい。」

鈴木委員「私は子どもに関して、子育てや小学校といったテーマについて話し合
いたいと思っている。」

葉委員「私が話したいテーマは日本語教育についてだ。日本に来たばかりの人は、
日本語が不自由なために本当にいろいろなことで困ると思う。ただ、私の考
えでは日本で過ごすためには日本語は不可欠だと思う。多言語のパンフレット

などをつくるよりは、日本語教育に力を入れた方がよいと思う。」

園田委員「私は、教育について話し合っていきたい。とくに、思春期を迎える子どもたちにとっては、居場所がなくなるということが、外国籍の子どもの場合には一番悩むところなのでサポートしてあげたい。」

河委員「私は子どもに対して国際感覚を養う教育の制度やプログラムをつくってきたい。今の子どもたちが大きくなるころには、今後、グローバル化というのがもっと進んでいくと思う。子どものうちから外国人と触れ合ったり、さまざまな文化や言語に触れ合ったりすることで、大人になってから必要なくグローバル感覚というのがもっと生まれてくると思う。」

仲田委員「私は、2つのテーマがある。1つは子育て支援。多摩区や高津区にもたくさんの子育て広場があるが、外国人の子育て広場は1つしかない。今、私はスタッフとして関わっているが、もう少し支援してほしいと思っている。もう1つは国際理解教室をやりたい。横浜には国際理解教室があり、学校で外国人の先生が自分の文化を英語と日本語で教えている。」

劉委員「私からは、2点。1点目は子育て関係についてで、パパ向けの子育て環境の改善について話し合いたい。たとえば、父子手帳などだ。2点目は去年も情報伝達ということで話し合っていたと思うが、私は情報伝達のための基盤について具体的にはWi-Fi環境の促進について話し合いたい。」

ヴィラマー委員「私は、2つのテーマについて審議したい。1つ目は、保育園をつくってほしい。2つ目は、外国人のためのいろいろなことが相談できる相談窓口をつくりたい。」

孔委員「私が審議したいテーマは、就職支援だ。その中でも、外国人による介護の仕事について話し合いたい。今現在、日本人の配偶者の在留資格を持っている人で、介護の仕事をしたいという外国人が多い。子育ても一段落して、ヘルパーの仕事に関心をもっている外国人市民に役に立つ情報を伝えたい。今後、高齢者が増えていくなかで、介護のことをもっと考えていくべきだと思う。」

グエン委員「9期に続いて私が議論したいのは、情報伝達についてだ。2020年に開催されるオリンピックに向けてこれからさまざまな外国人が一気に増えてくると思う。もちろん、今日本に住んでいる人たちも含めて何かサポートできればと思う。」

牟委員「私は2つある。1つは学校での取り組みだ。たとえば、各学校の文化祭な

どで私たちの活動をPRするとか、もっと子どもたちに外国人がいるということをおしを教えたい。あと、学校で外国人保護者の会をつくれればいいなと思ってる。いじめ問題についても話し合いたい。もう1つは二重国籍のことだ。国際結婚で生まれた二重国籍の子どもたちがずっと二重国籍を持ち続けることができるように国に働きかけたい。」

シャルマ委員「私のテーマは川崎の国際化を推進していききたいということだ。とくにオリンピックもあるので、いろいろな取り組みが必要になってくると思う。もう1つ、代表者会議のPRもしたいと思っている。」

金委員「具体的に述べたい。外国人が介護保険を利用して、より適切な介護サービスを受けられるように、何か働きかけをしたい。4つぐらいのことを考えているのだが、外国人も介護保険に加入している場合は、介護保険を利用することができるということをより周知させること。区役所などの窓口で相談をしやすいということ。窓口で介護保険を利用したいということを申請すると、面談の人が来るが面談の際に言語が不自由な人に対して必要なサービスを提供、支援をするということ。それから、介護保険の具体的な利用の際には、地域包括支援センターとケアマネジャーが重要な役割を果たすが、そこでも必要な支援ができるようにするということだ。今度、外国人市民を対象とした調査が実施されるということなので、今、川崎市に居住している外国人がどのような問題を抱えていて、どういった介護のニーズがあるのかということも具体的に知りたい。」

王委員「私が話し合いたいテーマは住宅入居問題だ。外国籍の方が日本で部屋を借りるとき、不動産業者に尋ねても、紹介される物件が少ない。または、拒否されるということが結構ある。1997年に提言が出ていて実現したことになるが、まだ入居問題で困っている外国人はいると思う。よりよいまちづくりに貢献するためにもこの問題について話し合いたい。」

河本委員「医療や育児に関心があるが、みなさんが発表したテーマはどれも大事だと思う。外国人だけではなくて日本人にとってもよりよいまちにするためには、どうすればよいのかを考えたい。私が住んでいる周りには外国人がたくさん住んでいるが、みんな税金が高いといっている。でも、外国人だけでなく日本人も住みやすいまちにするためには税金が必要だ。税金が私たちの生活に役立っているということをもっと外国人にもはっきりと伝えることが大事だと思う。」

セヌ一委員長「私は外国人の経済活動の支援について話したい。」

オルソン副委員長「私は3つある。1つ目は、日本に働きに来る、とくにこれはオリンピックの建設のためにたくさん来ると思うが、その人たちが騙されないように、搾取されないような対策を整えるべきだと思う。実際に川崎でそのような問題があるのかはわからないが、ないようにしてほしい。2つ目は、いろいろとあるのだがもっと生活を便利にしたい。たとえば、神奈川だと運転免許を1日で更新するためには1か所しかない免許センターに行くしかない（※川崎警察では即日交付可能）。もっと便利にしてほしい。3つ目は、日本人と交流して外国人は怖くないということを教えたい。いろいろな活動ができると思う。」

セヌ一委員長「みなさんには困っていることや不便に感じたことをただ話すだけではなく、どのように解決したらよいのかということまで考えてほしい。1人で難しいようなら、同じ意見をもつ人たちと意見を交換したりしてほしい。次に、部会の設置について話したい。まずは事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明。）

セヌ一委員長「みなさんの話したいテーマを聞いたが、本当にたくさんテーマがある。しっかりと議論を深めて、よい提言を出すためにも、正副委員長としても部会を設置した方がよいと考えている。部会の設置について質問や意見をどうぞ。前回、意見があったようだが劉委員からは。」

劉委員「指名されたが部会の設置については、あまり意見はない。部会に分かれた後の進行をどうするのかということをおみなさんと一緒に検討したい。私は分かれて同時に開催するのがあまりよくないと感じた。」

シフケン委員「前期の経験でいうと、部会に分かれて少ない人数でもテーマを絞っていくのは難しかったので、絶対に部会に分けないといけないと思う。」

セヌ一委員長「それでは、決をとりたい。部会を設置することに賛成する人は、手を挙げてください。（全員挙手）それでは、部会を設置することに決まった。次に、部会をいくつにするのかということを決めたい。このことに関して事務局から補足説明をお願いします。」

（事務局北爪職員が部会の数について補足説明。）

セヌ一委員長「補足説明があったが、部会の数について質問や意見はあるか。」

王委員「まずはテーマを少しまとめてから、部会がいくつになるのを決めた方が

効率的ではないか。」

シャルマ委員「まずはキーワードをあげて、それをマッピングして絞ればよい。

事務局の説明だと、2つ以上の部会を設置することは事実上難しいようなので、どのように2つに分けるかということに時間をかければよいと思う。

ディットマー委員「テーマを3つや4つに絞らなくても、1つのテーマを終えて、次のテーマに入るということにすれば2つ以上のテーマについて話したい人にもよいのでは。」

オルソン副委員長「私は1回傍聴しただけだが、みんなが話し合って決定するというのは難しいことだと感じた。1つずつスムーズに決定していけるような雰囲気ではなかった。たとえば、教育に関する部会に入らなくても、関心をもっている人がいれば情報を交換して、自分の意見を反映できるようにすればよいと思う。それぞれ理想はあると思うが、条件や状況に応じて妥協しなければいけない部分もあると思う。」

セヌー委員長「私の考えでは部会が2つであったとしても、みなさんが自主的に話し合ったり、意見交換をしたりすればうまく対応ができるのではないかと思う。」

仲田委員「テーマをみると、だいたい前期と同じように感じるので2つの部会で大丈夫だと思う。」

劉委員「私は半分の13人でも多いと思うので、本当は6、7人くらいのグループで議論するのがよいと思う。たとえば、3つのグループに分けて、2つのグループが審議しているあいだは、もう1つのグループはそれを客観的に聴講するというのはどうだろう。」

シャルマ委員「いろいろ意見を聞いているが、やはりまずは具体的にキーワードをあげてテーマごとに分類してみることをしないと議論が進まないように思う。」

セヌー委員長「次回の会議でキーワードを設定する予定だ。」

グエン委員「キーワードの分類が次回だとしても、大きく分類してみてテーマを考えるのならばよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「事務局や運営上の事情については理解していただいているように思う。まずは、大きなテーマごとに分類してみるということが次の作業として必要だと思う。部会を2つにしたとしても、共通で話し合うテーマがあれば全体会というかたちで審議することもできる。そこは柔軟に考えてよい。」

シャルマ委員「それならば、部会の数は2つということではよいのではないか。」

園田委員「たくさんテーマが出たということは、みなさんが熱心な証拠だと思う。

ただ、忘れてはいけないのは、私たちがすべきは自分のやりたいテーマにこだわるのではなく、川崎市に住む外国人にとって重要だと思うテーマについて協力して審議していくことだと思う。」

タカハシ委員「質問だが、話し合いやミーティングはこの場所でないといけないのか。」

セヌー委員長「正式な会議はここでやる必要がある。ただ、会議とは別の話し合いや意見交換はここでなくても構わない。」

事務局高橋専門調査員「みなさんの負担になってしまうかもしれないが、自主的に集まったりして話し合いや意見交換をするのはとてもよい案だと思う。ただ、正式な会議では、会議の記録も必要なのでどんどんと自由に発言するということはできない。指名された人が発言をするというルールは守ってほしい。」

セヌー委員長「それでは、決をとることにしたい。部会を2つにすることに賛成の人は手を挙げて。（賛成多数）では、部会は2つということに決まった。次回は、どのような部会にするか、誰がどの部会に入るか、そして部会長について決めたい。」

（事務局高橋専門調査員が今後のスケジュールとこれまでの部会のテーマについて補足説明。）

ヘイ委員「順番に一言ずつキーワードを発表していったらよいのではないか。」

セヌー委員長「一応、みなさんの意見はホワイトボードに書いてあるので、それを使いながら考えてみたい。」

事務局高橋専門調査員「目安として、学校、教育、子育てに関連するものに赤で丸をつけてみた。」

金委員「たしかに、学校や子育てといったテーマが重要なことはわかるが、日本の制度だと学校は教育委員会がと思うし、子育ては福祉や健康に関わる部署になると思うので、その辺りの制度のことも意識して分けた方がよいのではないか。」

ディットマー委員「私としては、子育てと学校は似たテーマに思える。子育てと学校を分けてしまうと、子どもと関係ないテーマが無視されてしまうのではないかと心配している。」

シフケン委員「今は、テーマを大きく2つに分けることが重要なので、あまり細かい

ことは気にしない方がよいと思う。細かいことは部会に分かれてから話すことになると思う。」

(A部会とB部会という形で分類を検討することに。)

グエン委員「たとえば、A部会は子育てなど、B部会は行政的な支援や就職活動などにして、国際交流について全員で話したらよいのではないか。」

セヌー委員長「今日は残り時間がないので、部会の分類は次回決定することにする。」

事務局高橋専門調査員「部会分けに関しては、次回までに事務局が案を作成してきてそれをもとに検討するというのでよいか。それと先程、金さんが指摘した担当部局が違うという問題はとても重要なことなので覚えておいてほしい。」

葉委員「質問だが、部会を2つに分けるときは13人ずつなのか。それとも、たとえば14人と12人でもよいのか。」

セヌー委員長「基本的には自分の希望した部会に入ることになるので、極端に偏らなければ人数は半分でなくてもよい。それでは、予定の時間になったので休憩とする。」

(休憩)

セヌー委員長「それでは会議を再開する。次の議事は、行事への参加についてだ。まずは事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。)

セヌー委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、市民祭りへの参加について、賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)市民祭りに参加するというので決定した。次に、実行委員会について決めたい。事務局から説明をお願いします。」

(事務局北爪職員が資料4に基づき説明。)

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。」

仲田委員「かわさき市民祭りは2日間やったし、インターナショナル・フェスティバルなどもあると10人では準備が大変なので、市民祭り実行委員会の人数を増やしたらどうか。たとえば、臨時会は8人とか7人で、市民祭りが13人とかではどうか。」

孔委員「私は第9期でも代表者だったのだが、みなさんもしかしたら実行委員会に入ったら、自分の実行委員会のことだけをやるのだと思っっているかもしれないが、そうではない。全員どこかの実行委員会に所属はするが、とくにイベント

などの活動はみんなでやるものだ。ぜひ、会議だけではなく、イベントなどにも積極的に参加をしてほしい。」

劉委員「1人が複数の実行委員会に入るということはできないのか。」

事務局北爪職員「実行委員会は会議が始まる前に並行して行うので、複数の実行委員会に入るとはできない。時間をずらせば可能かもしれないが、その場合は今よりも早く集合してもらうことになる。」

ケゼンガア委員「質問だが、案の中にある『実行委員会をつくらない』というケースでは全体会で話し合うということになっているが、これは会議の時間に話し合うのか、それとも会議の前に話し合うのか。」

事務局北爪職員「会議が始まる前の時間帯で話し合ってもらえることになる。」

セヌー委員長「まだ発言がないが、アスカさんは何か意見はあるか。」

ヒラチャン委員「私は今の意見を聞いて、実行委員会を作る方がよいと思っている。みなさん、いろいろやりたいのだろうということはあるが、たとえば全体でやるとなると1つ30分だとして3つなら90分ということになる。そうすると、少なくとも11時に集合することになると思うが、午前中に用事がある人もいるだろう。実行委員会に入らなくても手伝えることはできると思うので、実行委員会を作って進める方が現実的だと思う。」

セヌー委員長「それでは、決をとりたい。実行委員会は、臨時会、市民祭り、ニューズレターの3つでよいか。賛成の人は手を挙げてください。

(全員挙手) では、次に誰がどの実行委員会に入るのかを決めたい。

事務局から説明をお願いする。」

事務局北爪職員「今回はネームプレートを用意したので、ホワイトボードを使って決めていきたい。順番に実行委員会の希望を聞くので、自分が入りたい実行委員会のときに手を挙げてください。(順番に挙手) 人数のバランスも問題がないので決定ということではよいか。今日、欠席のオクサナさんには事務局の方で希望を確認しておく。」

セヌー委員長「さっそく次回から会議の前に実行委員会があると思うので、ご協力をお願いする。続いて、視察について事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料5に基づき説明。)

セヌー委員長「事務局の説明に対して何か質問はあるか。」

牟委員「バスで移動するということが、全員で集まって移動するのか、それとも別々にバスで移動するのか。」

事務局北爪職員「全員で集まってバスで移動する。」

牟委員「もう1つ、3時間で4カ所の視察だと多分ざっと見る程度で終わってしまう感じだが。」

事務局北爪職員「それも含めて視察先の候補を考えてほしい。」

セヌ一委員長「それでは、まずは日程について決めたい。7月27日の13時から16時でよいか。賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）では、視察先については、他に希望はあるか。」

劉委員「川崎市民ミュージアムという所があるのだが、そこを見学すれば川崎市の深い歴史を知ることができるのではないかと思うので薦めたい。」

事務局北爪職員「それでは、川崎市民ミュージアムも候補に含めて調整し、次回また案を示したい。」

セヌ一委員長「次に審議会委員等について決めたい。事務局から説明をお願いする。」

（事務局北爪職員が資料6に基づき説明。）

セヌ一委員長「何か質問はあるか。」

張委員「未経験者でも大丈夫か。」

事務局北爪職員「未経験者でも大丈夫だ。とくに条件もない。」

セヌ一委員長「市の審議会等委員の決め方については、できれば積極的に立候補してほしい。もし立候補がいなければ、推薦ということで決めたい。決め方について何か質問や意見はあるか。（賛成多数）」

園田委員「私は、3（川崎市青少年問題協議会）か4（川崎市国際交流センター活用推進検討委員会）に参加したい。」

張委員「私は、3（川崎市青少年問題協議会）に興味がある。」

任委員「2（かわさき市民祭り実行委員会）を希望する。」

セヌ一委員長「あとは1（川崎市成人式企画実施委員会）だ。王さんは。」

王委員「なっても構わないが、もう2回経験した。他にやりたい人がいれば、その人になってもらった方がよいと思う。」

セヌ一委員長「1（川崎市成人式企画実施委員会）をやってみたい人はいるか。」

（なし）では、王さんをお願いしたい。4つの委員の候補が決まったが、賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）それでは、4人の方はそれぞれよろしくお願いする。今日の議事はすべて終わった。事務局から事務連絡はあるか。」

事務局北爪職員「このあと市民祭りとニューズレターの実行委員には少し残っていた
だきたい。」

セヌー委員長「それではこれで、2014年度第1回第2日の会議を終わりにする。
お疲れさまでした。」